



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 26 年 9 月 21 日（日）

上町自治会・サンピノ自治会 合同自主防災訓練 編

上町自治会で、平成 17 年から毎年開催している自主防災訓練も今年で 10 回目となりますが、3 年前からサンピノ自治会と合同の形をとり、大塚会長さんと協力しながら近隣の連携をはかり実施しています。

午前 9 時からそれぞれの自治会で安否確認を行い、その後「防災セミナー」を開催。能代市にある 265 自治会に案内を差し上げ、一緒に学ぶ機会を提供しています。

安否確認は慣れてきていますが、毎年日曜日の午前 9 時開始ではなく、実施条件を変えて万全な体制をつくるべきと思うのですが、なかなか実現しません！来年こそはと考えておりますが…。

防災セミナー第 1 部では、いつものように県立大・木材高度加工研究所の渡辺千明先生にアドバイスを頂きながら進行。サンピノを会場に HUG「H 避難所 U 運営 G ゲーム」を実施しました。サンピノの施設平面図を使いながら図上訓練を行うことで地域の抱える課題を洗いだしながら、現実には有事の際さまざまな状況が起こる中で迅速な行動をとる難しさを体験。参加者全員が避難所運営を真剣に考える機会となり、実施して本当に良かったと思えました。

このゲームでは、県の防災アドバイザーで防災士の小助川さんをはじめ 6 名の防災士の方々にお越しいただき、各グループに付いて指導。能代市の防災危機管理室も全面的な支援をして下さり実現できたもので、皆さんへの感謝とこの経験をもとに「減災」を心がけ、「共助」の大切さを地域に浸透させたいと思えました。

第 2 部では、毎年行っている非常食づくりを体験。上町すみれ会が作るハイゼックスシートのご飯と現在、能代市が備蓄している数々の非常食をみんなで試食。最近ではパンの缶詰もあり、美味しく頂きました♪

被災時は「食」も大切。いろんな場面を想定しての体験がとても重要だと痛感します。

今後も地域で訓練を繰り返すことで防災力を高め、向上に努めて行きたいと考えておりますが、年々高齢化が進み現



避難訓練と安否確認は上町・サンピノそれぞれの自治会で実施します。サンピノ自治会では自主防災組織の活動費で購入した簡易担架の取り扱い訓練も実施しました。誰もが扱えるようになるために是非続けてほしいですね。



セミナー会場には自主防災組織で購入した備蓄品が展示されました(上)。上町すみれ会は交流室で非常食づくりの準備です(下)。



サンピノ・上町自治会、市内の自治会長さんのほか、大館市沼館自治会の方々参加もされました。自治会や自治体の垣根を越えて知恵を共有しながら、地域の防災力をあげていきたいですね。



## こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

実に災害が起きた時、迅速な行動が出来るのか不安が募ります。住民一人ひとりの意識向上が求められる今、どう対処すべきかを真剣に考えて行く必要があると感じます。「人ごと」でない危機感を持ちましょう！

渡辺先生、今後ともご指導よろしくお願い致します。

文：能登 祐子

### 防災訓練を終えて

9月中旬、今年も上町自治会と合同で防災訓練が行われました。合同で行われるのは今年で3回目(いつも上町の皆さんにおんぶにだっこです)、今回も両自治会とも開始時間を同じにし、避難訓練と安否確認に始まり、防災セミナーでは「避難所運営ゲーム(HUG)」を体験しました。

セミナーに参加した人は約50名、中には遠く大館市からの参加もありました。講師にはいつもお世話を頂いている「県立大学 木材高度加工研究所准教授 渡辺千明先生」や、アドバイザーとして今年初めてお願いした「日本防災士会」から7人の方が来能して下さい、大変有意義な合同訓練でした。

私自身 HUG は2回目でしたが、読み上げられる課題を瞬時に判断する事は中々難しく、「まごまごしている間に次の課題が来る」と言う状態で、最後の課題まで達成する事が出来ませんでした。実際に有事の時はこんなものではないという事を教わり、改めて日ごろの防災訓練がいかに大切かを実感した次第です。

これからも何時起こるか判らない災害に備え、日々気持ちを引き締めて地域のお世話をさせて頂くつもりです。

文：サンピノ自治会長 大塚 康央



これまで能代市で行われていた HUG では架空の町、架空の避難所でしたが、今回は能代市の被害想定に基づき、サンピノに避難することになりました。



防災士・小助川さんから次々に伝えられる状況の変化。先延ばしや保留ができません、素早い判断が求められます。



サンピノ・上町、よその方の混成チームに防災士や危機管理室の方々がファシリテーターとして参加して下さいました。



初めは椅子に座っていたのに、気づいたらみんな立っていました。サンピノという具体的な避難先であることから臨場感も増し、発災後の混乱した状況で決めることの難しさを理解されたのではないのでしょうか。これをきっかけに、平時からの話し合いと避難所運営マニュアルづくりにつながっていくといいですね。